

【奈良文化幼稚園】平成29年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
------	---

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	本園の目指す、わんぱくの森を軸とした「遊び中心の教育」の実現に努め、教育目標の焦点化を図った。	A	A	園内・園外の園庭研修会に積極的に参加するなど、園の方針に従って教職員全員が理解を深めた。	一人ひとりが園外研修で学んできたことを教員全体で共有して理解を深める時間を増やしたい。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、体力づくりと遊びの環境の充実に重点をおけたのか。	第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期整備工事で既に来上上がった遊び場での子どもの動きや様子を観察し、検討・調節をした。	A		日々の子どもの動きを観察し、気付いた点や改善ポイントなどについて外部講師を交え、話し合う場を持つことができた。また実際に子どもの動きに合わせて、調節することができた。	気付いたことを日々フィードバックして環境の充実につなげる機動力を養いたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達の特徴を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容を組織できたか。	「わんぱくの森」整備と並行して、教育内容を練り直し、新しい教育課程を作った。	B		各学年、学期ごとの具体的な教育課程を作成することができた。	学年、学期ごとの見直しはできたが、園生活全体を見通した内容にするにはやや不満が残った。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、園長を中心に教職員で協力して、その実現に向けて教育活動を行ったか。	一人ひとりの園児が主体的に活動し、精一杯の力を出し切れる保育内容を教職員で検討した。	A		日々の園生活で子どもの実態把握に努め、学年会議や職員会議で目指すものを共有し、それに応じた保育内容にすることができた。	他学年の状況にも目を配り、在園期間全体を見通して実践する教育活動に高めていきたい。

I 教育活動に関するもの	(2) 指導の状況	①基本的な生活指導	正しい生活習慣の大切さを知らせ、自然と身につくようにする。 家庭と連絡を密にしなが ら、取り組むことができたか。	個々のペースを見守りながら、団体行動の大切さや望ましい生活習慣の指導に努めた。	A	A	個々をよく理解してそれぞれに合った援助方法を考え、実施することができた。 また学期末懇談以外にも毎月のお帳面などを通じて一人一人の様子を丁寧に家庭に伝え、連携して進めることができた。	一人ひとりの家庭環境の違いや個性をよく理解しながら、必要な習慣を身につけることができるよう指導する。また個々の現状や目標を随時家庭と共有するよう心掛ける。
		①環境を通して行う活動の充実	見通しを持って計画的な環境の構成や活動の展開に応じて環境の再構成ができたか。	日々の観察から子どもの興味・関心を捉えて、意欲が育つ環境を工夫した。	A		子どもの実態をよく把握し、新しい環境を活かした保育、また四季を大切にしたい保育を展開した。	子どもに寄り添い、興味や関心をもっと引き出す環境を更に工夫したい。
		①個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解する指導法の工夫ができたか。	個々の発達の特徴を把握するよう努め、その時々での指導の重点を押さえ指導することができた。	A		個々の発達状況を理解し、指導によって段階的に成長していく様を感じる事ができた。	その時その時の指導にとどまらず長期的展望を持った指導を全教員ができるように心がけ、園全体で一人ひとりの発達を見守っていききたい。
		④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子どもが自ら試したり、考えたり、気付いたりできる遊び環境を整備した。	B		子ども達がやってみたいと思う保育計画を工夫、実践したが、時間的な制約から子どもの主体的活動という部分には欠けるところがあった。	時間的余裕があれば、より子どもの心の動きに合わせて展開できるが時間に縛られてしまうというケースがあった。
		⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	「子ども主体の行事」となっているかその必要性から内容までを検討し、厳選した。	A		行事一つ一つのねらいや目的を見直し、子どもの生活を一番に考えて精選、実践した。	行事のねらいや内容は園児主体に運営できたが、同時進行しているその他の活動は疎かになることがあった。
		⑥体力作りを目指す取り組み	子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	体力作りのための運動遊びを日々の生活で重ね、またそれが実際に体力作りに繋がっているかを専門の先生を招いて体力測定を行った。	A		発達段階に応じた運動遊びを展開した。またその経験を運動会で活かす競技も行うことができた。体力測定の結果を保護者と共有することで、運動遊びによる体力向上を数値で示すことができた。	秋以降は運動遊びの実施が減少しがちなので、一年を見通して実施できるようにしたい。またプログラム内容を子どもたちがもっとやりたいと感じるよう磨きをかけたい。
		⑦地域での教育活動の充実	地域に出かけ、地域を知り、地域の中で活動し、感じる機会を大切にできたか。	時計屋見学、お店屋見学など園を出て地域と交流する保育活動を実施した。	A		学年ごとに経験させたい内容、時期を実施の有無も含めて再検討した。社会見学としての学びは充分達成できた。	地域コミュニティの一員として、地域の人との繋がりや、その中で生活している自分たちという意識から、助け合い、思いやり、親切の大切さを感じられる保育内容にしていきたい。

		⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	子ども自身が目標を持つことができ、考えながら遊ぶ環境作りに努めた。	A	遊具や玩具だけでなく、遊ぶ場所(静かな場所、隠れられる場所、みんなの様子が一望できる場所など)も自ら選択し、自分のしたいことにより夢中になれる環境を作り出すことができた。	子どもの動きの観察から、どのような環境が必要か見えてきたので、よりよい環境作りに努めたい。
		⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回子ども達が楽しむ機会をつくれたか。	保育時間の中に絵本に親しむ時間を設け、より身近に感じられるように心がけた。	A	子どもたちが、クラスの仲間と一緒に絵本の時間を楽しむようになった。その時間の大切さが教師にも浸透した。	更により絵本の精選に努めたい。また絵本の貸し出しも充実したものにしていきたい。
		⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士による行動観察を園内で実施し、その結果をもとに配慮を要する子どもについて共通理解を図った。	A	配慮を要する子どもの様子や援助方法については学年で相談し、園長に報告して共通理解のもとに保育に当たることができた。	他学年の子どもについても目に付く部分の理解にとどまらず、クラス内での様子を全職員が共有して質の高い援助ができるよう努めたい。

【奈良文化幼稚園】平成29年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。	園運営や行事の目標に向けて全員で取り組むことができた。	B	B	それぞれ担当ごとに責任をもって役割を果たしているが、日頃の保育と並行して準備するため、細かい点まで目が届かないことがあった。	各行事、取り組みに対して、細かい点まで意識して準備等行う意識の向上を更に図り、一つとなって取り組む。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識でき、募集活動を積極的に行う。	募集の係を限定せず、全教職員が体験入園、地域のイベントといった広報活動に参加して募集に携わった。	A		出願開始日に、予定していた定員数が埋まる好調な募集状況となり、昨年以上の人数を募ることができた。	園庭が完成目前となり、より魅力ある幼稚園づくり、また、保護者が自信を持って知人に薦めてくれる幼稚園にするため、保育内容の充実を図る。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、議論の上決定したことには、協力し実行している。	必要に応じ、報告・連絡・相談して力を合わせることを全教職員が意識して業務に当たった。	A		会議体で意見を出し合って決定に至る運営を心掛けているので共通理解が図らやすかった。	伝えられなかった場合にも誤った理解がないようにするため、園全体で日常の保育からコミュニケーションをさらに強化していきたい。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係で必要に応じて協議、分担して、効率よく運営を進めた。	必要によって分担することで円滑な園務遂行を図ったが、分掌により、十分に機能していない係があった。	B		指摘されてから動くなど、事前の準備が不足して効率よく計画的に実施できないケースがあった。	教職員全員が常に全体を見渡して、不足している部分、遅れている部分に目を配り、協力できる体制を整えて行きたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	定期的に職員会議を行い、教職員相互の共通理解に基づく運営をしている。	必要に応じて全教職員が参加する職員会議を開いて共通理解を図った。	C		園の運営に対して全員が当事者意識を持つことができたが、一方で会議時間が長くなり、効率のと言えない場合もあった。	全員での会議を長引かせないように、各担当はあらかじめ原案を基に説明等をスムーズに行なえるように、準備を入念にすることを意識したい。
		⑥職場の人間関係	教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない。	普段からコミュニケーションを大切にし、親睦を深める場も定期的に設けて絆を深めた。	A		全員が気兼ねなく意見を言えることで、様々な立場の見方を知ることができ、業務の円滑遂行に役立った。	これからも積極的な意見交換ができるような環境を整え、更なる園の充実化を図りたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的な研究を行い、教育内容の質の向上や改善を図っている。	わんぱくの森の活用に向けて外部講師を定期的に招き、園内研修会を実施した。	A	A	外部講師によって新たな見方を示唆されるなど教職員の力量向上のための刺激なった。	継続的に教職員の研修を行い、保育内容の質の向上に努めたい。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、出来る限り積極的に学習の機会をもつ。	わんぱくの森計画を充実させるための園外研修に積極的に参加した。	A		他園の取り組みを知ることで、本園の恵まれた環境下で新しい保育に取り組む姿勢が教職員にみられた。	今後は先進園の運営方法など、あらゆる点を視察し、本園に合う内容か意見交換し取り入れていきたい。
		③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で生かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを園で報告し、教育目標に沿った形で本園に取り入れることができるか全員で話し合った。	A		園児の活動状況により、本園に合った園庭をつくるため、当初予定していた計画を見直す機会を持つことができた。	園児の成長及び進化に目を配り、教員一人一人が工夫した園庭遊びを繰り広げられるようにしていく。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	危機を想定し、子どもとともに訓練を実施する。	危機管理マニュアルに基づいて訓練を実施した。	A	A	本園の避難訓練を消防署に実際に点検して頂き、問題点を克服することができた。	子どもたちに意識させるため、今後も、定期的を実施していく。
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、確認、指導上の上、改善に努めている。	火災・地震など様々な場面を想定した訓練を行うことができた。	A		様々な状況を想定した訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができた。	天災だけでなく、不審者対策の訓練なども取り入れて行きたい。
		③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、特に教職員の役割分担を徹底して確認した。	A		書面上にとどまらず、実際の訓練で感じた小さな疑問や問題点を話し合い、共通理解の上で解決することができた。	教職員が状況に合わせた迅速な対応ができるように取り組んでいきたい。
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	消防署や火災報知器業者と一緒に確認する、などの連携をとった。	A		消防の方から実際に指導を仰ぎ、安全対策や緊急時の対応を学ぶことができた。	昨年同様、定期的に取り入れることで、対応の仕方を確認しながら指導も受けることが出来るので、今後も関係諸機関に協力いただく。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	③健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について指導を受けた。	A	A	園医と密に連絡を取って相談することで、状況に即応した対応をとることが出来た。	今後も、子供たちが安全に健康に生活できるように、園医や保健所との連携を図っていく。
		②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	園からのお便りで、考えうる流行病の予防策や、日常の手洗いうがい消毒を実施していることを伝えた。	A		流行病による対策及び情報について、保護者に緊急連絡メールで報告するなど、随時周知することを心掛けた。	流行病に関する情報について、保護者が知りたいと思う情報は迅速に流していく。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	「開かれた幼稚園」としての取り組みを計画、実践する。家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	園庭開放や地域との交流(商店街での園外教育等)、また、葛城市や高田市のイベントへの参加を通じ、交流を深めた。	A	A	園児の疲労も考慮して、参加行事を見直した結果、練習できる時間が増え、質の高い内容を披露することができた。	行事の質だけではなく、きちんと挨拶ができるよう、基本的な部分も質を高めていく。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA役員には大きな行事(運動会・バザー)で協力してもらい、PTAのクラブ活動も園の行事に組み入れて発表の場を提供するなど連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員がお互いに積極的に行動して教職員並みの協力をしてくれた。	園の行事を早めに周知するなど、連携を取りやすい環境を作っていく
		③幼小連携	今日的課題に向き合い、就学に対する不安を解消する。	小学校の連絡会等に参加してその結果を持ち帰り、子どもたちの就学に対する不安解消に努めた。	A		次年度から小学生ということもあり、就学に向けた適切な教育をすることに努めた。	就学先は多数にわたるので時間が費やされるが、子供たちが安心して就学できるように、情報共有を行っていく。
		④関係者評価の実施	保護者アンケートの結果を知らせる。	3学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、結果報告を行った。	A		園教育アンケートを文書で正確に保護者に報告することができた。また、これを基に、HPに学校評価を作成・開示した。	学校関係者評価を実施し、取組内容を検討していく。
	(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	責任をもって、清掃・点検・後始末をする。	各学年で担当箇所を決めて清掃や点検を行っている。	A	A	各学年、きれいな環境を整えるなど、責任をもって取り組むことができた。	子供たち自身が環境に対する美化意識を持ち続け、担当場所を毎日確認し、維持できるようにする。
		②遊具、用具の活用状況と全体管理	安全に活用できるように点検、整備をする。	遊具が増えた分、点検する箇所も増えたが、安全活用のため怠りなく点検し、速やかな修繕対応ができた。	A		教職員で遺漏なく点検及び修繕をしている。園児の安全を第一に点検に取り組んでいた。	教職員で修繕できる部分と専門業者に委ねる部分をはっきり区別する必要がある。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
Ⅱ 学校経営に関するもの	(7) 情報管理	①公文書の收受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	分類して文書を保管し、必要に応じてすぐ取り出せるように管理することができた。	A	A	ファイルを利用して細目ごとに区別して分類しており、見やすくしている。	PCを活用し、効率よい情報共有を展開していく。
		②公文書の作成	速やかな対処をする。	期日厳守だが、極力速やかな文書作成に努めた。	A		行事録や会議録も後送りせずその都度まとめ、整理して保管することができた。	現在の状態が維持できるように心掛ける。
		③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人情報の取扱には細心の注意を払い、学園関係者以外に不要な情報が伝わらないように努めた。	A		HPでの発信も含め、細心の注意をはらっていたので、特段問題はなかった	PCデータにパスワード付けるなど、徹底管理していく。
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	行事等最新情報を発信できるようにHP作成していたが、更新できていない箇所がある。	C		更新したい情報があるが、情報が少なく更新できない部分がある。	特にHPは広報の重要部分であるため、教職員全員が意識を強く持ち、対応を検討していかなければならない。